

令和3年9月30日

令和3年9月 記者懇談会 冒頭挨拶

皆さんこんにちは。

本日も、ご多忙中にもかかわらず、お集まりいただき、ありがとうございます。

本日をもって京都府を含む全国の緊急事態宣言などが解除されることになりましたが、

ワクチン接種については、職員のうち、船員にあっては優先接種の対象となっていたことから既に終了しています。

その他の職員のワクチン接種については自治体の一般接種の枠組みで行っており、このペースで行けば10月下旬には2回目が終了する予定です。

さて、本日の本部からの発表事項は、3点を紹介させていただきます。

- 一点目が、海上保安庁海図 150 周年・舞鶴鎮守府開庁 120 周年を記念しての特別企画展の開催について
- 二点目が、灯台 153 周年を記念しての灯台企画展の開催や大型灯台の一般公開について
- 三点目が、秋季期間の海の事故ゼロを目指してとして、磯場やミニボートでの釣り中の事故防止

の3点です。

1点目の

海上保安庁海図150周年・舞鶴鎮守府開庁120周年を記念しての特別企画展の開催についてですが、

ちょうど本年が舞鶴市にとっては舞鶴鎮守府開庁120周年、海上保安庁にあっては海図を作り始めて150周年という節目が重なったことから、舞鶴市とコラボして、特別企画展を開催するものです。

特に、両者をつなぐものとしてあげられるのが、舞鶴市出身の「伊藤雋吉(としよし)氏」です。

この方は、田辺藩の藩士でしたが、明治政府から命令により、黎明期の海図作成に携わるとともに、舞鶴鎮守府の開庁にも携わった方です。

我が国で初めて発行された海図には、伊藤氏の名前が記載されております。

10月2日(土)の午前10時から、赤れんが3号棟玄関前にて、オープニングセレモニーとして、舞鶴市長とともにテープカットを行います。

お時間に都合がつけば、是非、お越し頂ければ幸いです。

2点目の

灯台153周年を記念しての灯台企画展の開催や大型灯台の一般公開についてですが、

我が国初の洋式灯台である観音埼灯台(神奈川県横須賀市)の起工日(1868年(明治元年)11月1日)に因んで、海上保安庁では、11月1日を「灯台記念日」と定め、今年で153周年を迎えます。

舞鶴では、赤レンガ博物館での灯台レンガ、灯台写真パネル、灯器等の展示などを行います。

例年であれば、多くの灯台で一般公開を行うところ、本年にあっても、新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から、限定的なものとなり、とても残念です。

3点目の

秋季期間の海の事故ゼロを目指してとして、磯場やミニボートでの釣り中の事故防止についてですが、

例年、10月以降、磯場での釣り中の事故とミニボートに乗っての釣り中の事故が増える傾向にあります。

このため、安全推進釣具店、安全推進パドラー、安全推進アングラーのほか、ミニボート、カヌーのメーカーやそれらの販売店と協力して、あるいは、海上保安官が現場に臨場して、愛好者に事故防止を呼び掛ける活動を行っていきます。

ところで、8月中旬に護衛艦せとぎりが、ソマリア沖での海賊対処行動を終え、舞鶴に帰港した際の入港式典に、私も参加させて頂きました。

式典参加中には、海賊対処法を制定した当時のことが昨日のように思い出され、また、第1回目の派遣から10年以上の長きにわたり、海保と海自がしっかりと連携し、そして事故なく、世界各国と協力し、ソマリア沖の船舶航行の安全確保に貢献されていることに、関係者の皆さまに、改めて敬意を表し感謝した次第です。

一方、同じく、8月下旬にはアフガニスタンから米軍などが撤退し、再びタリバンが政権を奪取しました。

米国が同時多発テロの容儀者を匿っているとして英国などとアフガニスタンを攻撃した際、私は中東のクウェートにある日本大使館で

勤務していました。

攻撃の当日には、有志連合国の一つであった英国大使館の人たちと食事会をしておりましたが、彼等も攻撃のことを知らず、CNNのニュース速報が流れると、食事会どころでなくなったことを思い出しました。

その後続くイラク戦争では、情報収集活動を始め。帰国命令が出された家族の帰国準備、残る邦人のための退避支援や大使館員の防護のための作業などを慌ただしく行ったことも思い出されました。

あれから20年がたちますが、平和を確立し、繁栄していくことの難しさを改めて感じた次第です。

私からは以上となります。